

受講生の声

（2年次生・男子）

今日栗山さんの話を聞いて一番感じたのはここまで実力があってとてもすごい人なのに色々な人に謙虚で低い姿勢でいたのがとても全員にできることじゃないなと思いました。日本でも世界でも1位を経験する人なんて世界を見ても数人しかいないと思います。なのに自分はすごくないと言っているのを聞いて自分のためじゃなくて人のために感謝しながら野球をしていたんだなと感じました。

大谷翔平、ダルビッシュ有、前田健太などのトップ選手は自分のことだけを考えてレベルアップしてるんじゃなくて相手のレベルアップのことも考えて敬意を持って練習、プレーをしているというエピソードを聞いたときに自分も選手時代そういうことができていればなと思わされました。

この話を聞いた価値をとても感じました。

（2年次生・男子）

栗山英樹さんの対談を通して、大学教育の本質と人間力の重要性を改めて考えさせられた。大阪学院大学の建学の精神が掲げる「広く社会に貢献し、人類の福祉と平和に寄与する」という理念は、単に専門知識を身につけることではなく、人としてどう在るかを重視している点に特徴がある。栗山さんが語る「野球選手は野球だけやってもうまくならない」という言葉は印象的であり、スポーツも人生も逆算して考え、人間性を土台から築くことが成長につながると感じた。また、「自分の考えは間違っているかもしれない」と思いながら人の話を聞く姿勢は、他者との衝突を避け、理解を深めるために欠かせない。大学は知識を学ぶ場であると同時に、人間性を磨く場であり、その積み重ねが社会で生きる力になるのだと強く感じた。

（2年次生・女子）

栗山監督と大社オーナーの対話を通して、野球という競技を超えた「人を育てる」との本質を聞いた。特に印象に残ったのは、過去の実績や即戦力よりも、人間力や将来性、そして信じる力を重視する考え方である。人は信じてもらえていた時にこそ力を発揮でき、時間をかけて成長していくという栗山監督の言葉には深く共感した。また、目的を明確にし、逆算して行動すること、個人の目標とチームの目的が一致した時に組織は強くなるという考え方も印象的だった。

私自身もスポーツをしていた経験から、明確な大きな目標を掲げ、そこへ向かうための小さな目標を積み重ね、チーム全員が同じ方向を向いている時ほど強いと感じてきた。全員がそうとは限らないが、部活動やスポーツを本気でやってきた人の方が、コミュニケーション能

力や周囲を見て動く力を身につけていると感じる人が多い。それは、勝つために自分の意見を伝える必要があり、互いにサポートし合い、試合に出られなくても出ている仲間を信頼するという「人を信じる心」を経験の中で培ってきたからだと、この対話を通して感じた。プレイヤーではなく、監督やオーナーという普段なかなか聞くことのできない立場の二人の話を聞ける機会を作ってください、ありがとうございました。自分自身スポーツが好きで、将来スポーツに関わる仕事も視野に入れているため、今回の対話は自分の価値観を広げてくれる非常に貴重な経験となりました。

（2年次生・女子）

今回の大学の対談授業で、北海道日本ハムファイターズの栗山英樹監督と大社さんのお話を約1時間半聞き、人間力や人との関わり方について多くの学びがあった。正直に言うと、プロ野球選手は実力がすべてで結果を出せば上に行ける世界だと思っていた。しかし今回の対談を通して、それだけではなく、人としてどう生きるか、どんな姿勢で周囲と関わるかがとても大切にされていることを知った。

栗山監督は、大学は「人としての土台をつくる場所」だと話しており、この言葉は今の自分にとても刺さった。プロの世界でも、人として普通であることや、間違えないように努力する姿勢が大切だという話から、社会に出る前の今の時間の使い方を考えさせられた。また、野球の成績だけでなく、ファンサービスや社会貢献まで含めて一人の選手を見ているという点に、プロとしての責任の大きさを感じた。

特に印象に残ったのは、「信じる力」についての話である。すぐに結果が出なくても、時間をかけければできるようになるかもしれない信じて待つ姿勢は、指導する側だけでなく、信じてもらう側にとっても大きな支えになると思った。まだ若いからこそ可能性がある、という言葉は学生である私にとって前向きになれるものだった。

また、ファイターズは仲が良いだけでなく、切磋琢磨できるチームだという話から、良いコミュニケーションが成長につながることを学んだ。人は一人でも成長できるが、人と関わることで見えるものや得られるものはもっと多いと思う。今回の対談を通して、人間力は社会に出てからも必要不可欠な力であり、今の学生生活の中で意識して身につけていきたいと感じた。

（2年次生・男子）

今回、栗山監督の話を聞いて、野球でもどのスポーツでも技術や瞬発力だけでなく、人としての在り方がとても重要だと感じた。逆算してプレーを考える力や、その場の判断力はもちろん大切だが、日々コツコツ努力し、言われたことを継続してやり続ける姿勢が、結果的に

周囲の応援を自分の力に変えるのだとわかった。また、監督という立場には高いコミュニケーション能力や社会性が必要であり、それは生まれつき備わっているものではなく、家庭や学校生活の中で身についていくものだという話が印象に残った。特に、人間力のスタートは他人の立場に立って物事を客観的に見ることだという考え方は、野球だけではなく、日常生活にも通じると思った。ダルビッシュ選手の例から、相手が何を求めてているのかを考えて行動することが、高いレベルでのプレーにつながると学んだ。スポーツだけの話ではなく、日常から周りを見れることがすべてに繋がると感じたので自分にも活かしていきたいと思いました。

（2年次生・男子）

今回、栗山監督の話を聞いて、野球でもどのスポーツでも技術や瞬発力だけでなく、人としての在り方がとても重要だと感じた。逆算してプレーを考える力や、その場の判断力はもちろん大切だが、日々コツコツ努力し、言われたことを継続してやり続ける姿勢が、結果的に周囲の応援を自分の力に変えるのだとわかった。また、監督という立場には高いコミュニケーション能力や社会性が必要であり、それは生まれつき備わっているものではなく、家庭や学校生活の中で身についていくものだという話が印象に残った。特に、人間力のスタートは他人の立場に立って物事を客観的に見ることだという考え方は、野球だけではなく、日常生活にも通じると思った。ダルビッシュ選手の例から、相手が何を求めてているのかを考えて行動することが、高いレベルでのプレーにつながると学んだ。スポーツだけの話ではなく、日常から周りを見れることがすべてに繋がると感じたので自分にも活かしていきたいと思いました。